

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 09-038009

(43)Date of publication of application : 10.02.1997

(51)Int.Cl.

A47L 13/20

A47L 13/38

(21)Application number : 07-196702

(71)Applicant : KAO CORP

(22)Date of filing : 01.08.1995

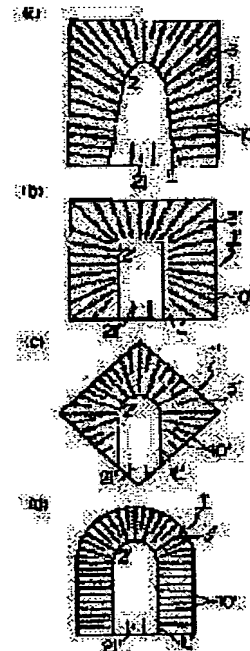
(72)Inventor : SEDAI FUMIHIKO
HIRAYAMA HARUNOBU
SUZUKI YOICHI
TSUTSUMI YASUKI

(54) CLOTH, HANDLE AND TOOL FOR CLEANING

(57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To obtain a set of cloth, handle and tool for cleaning, which is comfortable to use not only for dusting but also for wiping by a set of cleaning consisting of a wiping part and a duster part where flat-formed materials and a lump of rectangular cloths or piled ones, both made of fiber materials, are used respectively.

SOLUTION: Cloths for cleaning consist of fiber materials at a flat wiping part 2 or 2' and at a duster part 3 or 3' where a lump of rectangular cloths or piled ones are used. The duster part 3 or 3' is desirable to be located at the circumference of the wiping part 2 or 2' or at the opposite side of the wiping part 2 or 2'. Fiber materials to constitute these cloths include not only sheet-formed ones like woven fabrics, nonwoven fabrics and tissue papers but also voluminous ones like piled fabrics for duster part. Nonwoven fabrics of high dust-absorbency and high abrasion resistance are particularly preferable to be used. Such nonwoven fabric include spun-lace nonwoven fabric, for example.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination] 20.11.1998

[Date of sending the examiner's decision of rejection] 28.11.2000

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision]

of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's
decision of rejection]

[Date of extinction of right]

Copyright (C); 1998,2000 Japan Patent Office

/

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平 9 - 3 8 0 0 9

(43) 公開日 平成 9 年 (1997) 2 月 10 日

(51) Int. Cl. °

A47L 13/20

13/38

識別記号

庁内整理番号

F I

A47L 13/20

13/38

技術表示箇所

A

B

審査請求 未請求 請求項の数 10 O L (全 10 頁)

(21) 出願番号 特願平 7 - 1 9 6 7 0 2

(22) 出願日 平成 7 年 (1995) 8 月 1 日

(71) 出願人 0 0 0 0 0 0 9 1 8

花王株式会社

東京都中央区日本橋茅場町 1 丁目 1 4 番 1
0 号

(72) 発明者 世代 文彦

東京都墨田区文花 2 - 1 - 3 花王株式会
社研究所内

(72) 発明者 平山 晴信

東京都墨田区文花 2 - 1 - 3 花王株式会
社研究所内

(74) 代理人 弁理士 羽鳥 修 (外 1 名)

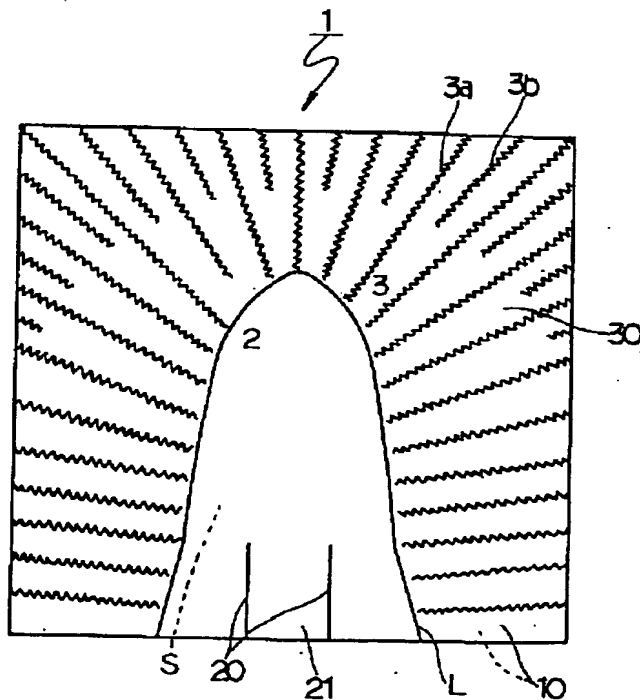
最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 清掃布、清掃具の柄及び清掃具

(57) 【要約】

【課題】 はたきとしての使用はもちろん、拭き掃除にも好適な、新規な、清掃布を提供すること。

【解決手段】 平面状の拭取り部 2 及び短冊状のはたき部 3 を備えた繊維材料からなる。



【特許請求の範囲】

【請求項 1】 平面状の拭取り部及び短冊状又はバイル状のはたき部を備えた繊維材料からなることを特徴とする清掃布。

【請求項 2】 上記拭取り部が、挿入空間を有する袋部の周面部を形成することを特徴とする請求項 1 に記載の清掃布。

【請求項 3】 上記はたき部が、上記拭取り部の周縁部に設けられていることを特徴とする請求項 1 又は 2 に記載の清掃布。

【請求項 4】 上記はたき部が、上記拭取り部の裏面側に設けられていることを特徴とする請求項 1 又は 2 に記載の清掃布。

【請求項 5】 柄本体の先端部に可撓性を有する清掃布装着用のヘッドを備えていることを特徴とする清掃具の柄。

【請求項 6】 上記ヘッド内に、芯材が配設されていることを特徴とする請求項 5 に記載の清掃具の柄。

【請求項 7】 上記芯材が板状の弾性部材からなることを特徴とする請求項 6 に記載の清掃具の柄。

【請求項 8】 上記柄本体が伸縮自在に設けられていることを特徴とする請求項 5 ～ 7 のいずれかに記載の清掃具の柄。

【請求項 9】 請求項 1 ～ 4 のいずれかに記載の清掃布と、請求項 5 ～ 8 のいずれかに記載の清掃具の柄とからなる清掃具であって、上記清掃具の柄における上記ヘッドに、上記清掃布を装着してなることを特徴とする清掃具。

【請求項 10】 上記清掃布が上記清掃具の柄における上記ヘッドに着脱自在に装着されていることを特徴とする請求項 9 に記載の清掃具。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】 本発明は、清掃布、清掃具の柄、及び清掃具に関する。

【0002】

【従来の技術】 家具、電化製品、照明器具などの物品に付いた埃を取るための住宅用の清掃具としては、柄の先端部に複数の索状体を備えたはたきが知られている。従来から使用されているはたきは、埃の付いた対象物の表面をはたいて埃を取り去るものである。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】 ところで、従来ののはたきは、上述のような使用を前提としているため、広い範囲に亘って付いた埃をきれいに拭き取ることは困難であった。

【0004】 従って、本発明の目的は、はたきとしての使用はもちろん、拭き掃除にも好適な、新規な、清掃布、清掃具の柄、及び清掃具を提供することにある。

【0005】

【課題を解決するための手段】 本発明の請求項 1 に記載の発明は、平面状の拭取り部及び短冊状又はバイル状のはたき部を備えた繊維材料からなることを特徴とする清掃布を提供することにより、上記目的を達成したものである。

【0006】 本発明の請求項 2 に記載の発明は、請求項 1 に記載の清掃布において、上記拭取り部が、挿入空間を有する袋部の周面部を形成することを特徴とする清掃布を提供するものである。

10 【0007】 本発明の請求項 3 に記載の発明は、請求項 1 又は 2 に記載の清掃布において、上記はたき部が、上記拭取り部の周縁部に設けられていることを特徴とする清掃布を提供するものである。

【0008】 本発明の請求項 4 に記載の発明は、請求項 1 又は 2 に記載の清掃布において、上記はたき部が、上記拭取り部の裏面側に設けられていることを特徴とする清掃布を提供するものである。

20 【0009】 本発明の請求項 5 に記載の発明は、柄本体の先端部に可撓性を有する清掃布装着用のヘッドを備えていることを特徴とする清掃具の柄を提供するものである。

【0010】 本発明の請求項 6 に記載の発明は、請求項 5 に記載の清掃具の柄において、上記ヘッド内に、芯材が配設されていることを特徴とする清掃具の柄を提供するものである。

【0011】 本発明の請求項 7 に記載の発明は、請求項 6 に記載の清掃具の柄において、上記芯材が板状の弾性部材からなることを特徴とする清掃具の柄を提供するものである。

30 【0012】 本発明の請求項 8 に記載の発明は、請求項 5 ～ 7 のいずれかに記載の清掃具の柄において、上記柄本体が伸縮自在に設けられていることを特徴とする清掃具の柄を提供するものである。

【0013】 本発明の請求項 9 に記載の発明は、請求項 1 ～ 4 のいずれかに記載の清掃布と、請求項 5 ～ 8 のいずれかに記載の清掃具の柄とからなる清掃具であって、上記清掃具の柄における上記ヘッドに、上記清掃布を装着してなることを特徴とする清掃具を提供するものである。

40 【0014】 本発明の請求項 10 に記載の発明は、請求項 9 に記載の清掃具において、上記清掃布が上記清掃具の柄における上記ヘッドに着脱自在に装着されていることを特徴とする清掃具を提供するものである。

【0015】 本発明の請求項 1 ～ 4 のいずれかに記載の清掃布においては、上記はたき部を利用したはたきとしての使用の他に、上記拭取り部を利用した拭き掃除にも使用可能であり、清掃箇所に対応した幅広い使用が可能である。

50 【0016】 本発明の請求項 5 に記載の清掃具の柄においては、上記清掃布装着用のヘッドが、可撓性を有して

いるので、当該ヘッドに清掃布を装着して清掃する際に対象物に傷をつけることがない。

【 0 0 1 7 】本発明の請求項 6 又は 7 に記載の清掃具の柄においては、上記ヘッド内に、芯材が配設されているので、ヘッドに適度の剛性を付与することができる。

【 0 0 1 8 】本発明の請求項 8 に記載の清掃具の柄においては、上記柄本体が伸縮自在に設けられているので、清掃箇所に応じて柄本体を伸縮させることができるほか、収納時にもコンパクトに収納することができる。

【 0 0 1 9 】本発明の請求項 9 に記載の清掃具においては、請求項 5 ～ 8 のいずれかに記載の清掃具の柄における上記ヘッドに、請求項 1 ～ 4 のいずれかに記載の清掃布を装着することによって、上記はたき部を利用したはたきとしての使用の他に、上記拭取り部を利用した拭き掃除も可能であり、清掃箇所に対応した幅広い使用が可能である。

【 0 0 2 0 】本発明の請求項 1 0 に記載の清掃具においては、使用により汚れた清掃布の取り替えは、当該清掃布をヘッドから取り外して新たな清掃布を装着することによって簡単に行うことができる。

【 0 0 2 1 】

【発明の実施の形態】次に、本発明の実施の形態を添付図面を参照しながら説明する。

【 0 0 2 2 】本発明に係る清掃布は、平面状の拭取り部及び短冊状又はパイル状のはたき部を備えた繊維材料からなるものである。清掃布における拭取り部とはたき部の形態は、例えば、図 1 (a) ～ (d) に示したような、種々の形態とすることができる（同図中拭取り部は符号 2 、 2 ' 、また、はたき部は符号 3 、 3 ' で図示。）。また、はたき部は、図 1 ～ 図 3 に示すように、上記拭取り部の周縁部に設けたり、図 4 に示すように、拭取り部の裏面に設けることが好ましい。

【 0 0 2 3 】本発明の清掃布を構成する繊維材料は、織布・不織布、薄様紙等のシート状の繊維材料は勿論、はたき部に使用されるパイル等の索状の繊維材料を含むものである。

【 0 0 2 4 】上記繊維材料として不織布を使用する場合には、吸塵性に優れ且つ耐摩耗性に優れている繊維材料からなる不織布が特に好ましく使用される。このような性質を備えた好ましい不織布としては、例えば、スパンレース不織布等が挙げられる。

【 0 0 2 5 】本発明の清掃布における拭取り部は、当該拭取り部が、内部に挿入空間を有する袋部の周面部を形成するように、例えば、二枚のシート状の繊維材料を重ね合わせ、更に縫合或いはヒートシールして設けたり

（図 1 (a) ～ (d) 、図 4 参照）、或いは図 2 及び図 3 に示すように、一枚のシート状の繊維材料を折曲し、ヘッドの形態に対応した挿入空間を有する袋部の周面部を形成するように設けることができる。

【 0 0 2 6 】本発明の清掃布におけるはたき部は、本発

明の清掃布を上記シート状の繊維材料のみで作製する場合には、図 1 (a) ～ (d) 又は図 2 (a) 及び (b) に示す実施形態の清掃布におけるはたき部 3 (又は 3 ') のように、繊維材料 1 0 (又は 1 0 ') をその周縁部から拭取り部 2 (又は 2 ') の近傍まで切り込んで短冊状に形成したり、或いは、予めミシン目状の切り込み線を設けておいて使用時に上記切り込み線に沿って引き裂いて短冊状に形成することができる。切り込み (又は切り込み線) の形態としては、直線状、ジグザグ状、波線状等の種々の形態が挙げられる。なお、図 2 (a) に示すように、一枚のシート状の繊維材料 1 0 ' を半折りにして、清掃布 1 ' を設ける場合には、その折曲線をミシン目としておき、折り曲げてヘッド 4 1 ' に固定した後、そのミシン目に沿って繊維材料 1 0 ' を裁断し、折曲線の両側に位置する部分にのはたき部 3 ' を設けることができる。

【 0 0 2 7 】また、本発明の清掃布におけるはたき部は、本発明の清掃布を、上記シート状の繊維材料及び索状の繊維材料で作製する場合には、図 3 (a) 及び

(b) 又は図 4 (a) ～ (d) に示す実施形態におけるように、拭取り部 2 ' を形成するシート状の繊維材料 1 0 ' に、はたき部 3 ' を形成する索状の繊維材料を縫合又はヒートシールすることによって、拭取り部 2 ' の周縁部（図 3 (b) 参照）又は裏面側（図 4 参照）にはたき部 3 ' を配設させることが好ましい。

【 0 0 2 8 】本発明に係る清掃具の柄は、例えば、図 5 に示す実施形態の清掃具の柄 4 におけるように、柄本体 4 0 と、柄本体 4 0 の先端部に装着されたヘッド 4 1 とから構成することができる。

【 0 0 2 9 】上記柄本体は、例えば図 5 に示す実施形態の柄本体 4 0 のように、2 本以上の複数本の筒状部材を主体として構成し、公知の収縮機構を用いてこれらを伸縮自在且つ係止可能に設けることが好ましい。また、柄本体は、一本の棒状体からなる伸縮不能のもので構成してもよい。また、柄本体の断面形状は、楕円形、円形、多角形状などの種々形状と或いはこれらの形状を組み合わせたものすることができる。上記柄本体を構成する上記筒状部材又は棒状体は、塩化ビニル、アルミ若しくはその合金製のものが好ましい。

【 0 0 3 0 】本発明の清掃具の柄におけるヘッドを構成する可撓性を有する弾性部材としては、スポンジ状の多孔性弾性部材、人工皮革や若しくは布を袋状にしたものでフェルトや綿等の繊維材料内包したクッション状の弾性部材、又はゴム等の弾性部材が好ましく使用される。

【 0 0 3 1 】上記ヘッドをスポンジ状の多孔性弾性部材で作製する場合には、耐久性に優れた軟質の発泡させた合成樹脂からなる多孔性弾性部材が特に好ましく使用される。このような性質を備えた好ましい多孔性弾性部材としては、例えば、発泡ポリエチレン、発泡ポリウレタン等が挙げられる。

【 0 0 3 2 】 また、上記ヘッドを上記のような合成樹脂製の多孔性弾性部材で作製する場合には、清掃布の装着・取り外しがスムーズに行えるように、その表面の滑性を良好なものとすることが好ましく、このような表面滑性を良好にする方法としては、例えば、メルトーム加工（表面滑性を良好にする加工法）が挙げられる。

【 0 0 3 3 】 また、上記ヘッドの形態は、装着する清掃布に応じて適宜変更可能であるが、例えば図 6 に示す実施形態のヘッド 4 1（又は 4 1'）のように、平面視して略 U 状の輪郭を有するように先端部が先細る形態としたり（図 6（a）参照）、矩形状の形態とすることができ（図 6（b）参照）、このような形態にすることで、角部や狭い隙間等の清掃をしやすくすることができる。また、ヘッドの厚さは、一定の厚さに設けたり、例えば図 5 に示す実施形態のヘッド 4 1 のように、先端部に進むにつれて薄くなるようにテーパを設けたり、或いは同ヘッド 4 1 のように、幅方向に進むにつれて薄くなるようにテーパを設けることができる。特に、上記ヘッド 4 1 のようにテーパを設けることは、角部の清掃を容易にしたり、狭い隙間の清掃をしやすくする上で効果的である。

【 0 0 3 4 】 また、本発明の清掃具の柄におけるヘッド内には、芯材を配設することにより、所望の剛性をヘッドに付与することが好ましい。このヘッド内への芯材の配設は、ヘッドを上記多孔性弾性部材や、クッション状の部材で作製した場合に特に効果的である。上記芯材の実施形態は、ヘッドの形態に合わせて適宜変更できるが、例えば、図 7（a）～（c）に示すような実施形態のヘッド 4 2（又は 4 2'）のような形態とすることが好ましい。上記芯材は、ポリプロピレン、ABS、ポリカーボネート等の合成樹脂や、ステンレス、パネ鋼等の金属製のものが好ましい。この芯材の下端部には、当該ヘッドを上記柄本体へ装着するための装着手段（例えば、雄ねじ部材 4 3（図 6 参照））を設けることが好ましい。

【 0 0 3 5 】 本発明の清掃具の柄におけるヘッドは、多孔性弾性部材やクッション状部材で作製した場合には、内部に芯材を配設することが好ましいが、比較的硬質のゴム等の弾性部材で作製した場合には、芯材を除いた構成とすることもできる。

【 0 0 3 6 】 上記ヘッドへの清掃布の装着後の固定手段としては、例えば、図 1 に示す実施形態のように、清掃布 1 にタブ 2 1 を設けてヘッド 4 1 の挿入空間内に押し込んで固定したり、或いは、図 2 及び図 3 に示す実施形態のように、ヘッド 4 1' の表面に、ファスナー付きテープ（例えば、登録商標「マジックテープ」）T を張り付けておき、これによって、清掃布 1' を固定するようにしてもよい。

【 0 0 3 7 】 また、本発明の清掃具の柄において、上記柄本体と上記ヘッドとは、着脱自在とすることが好まし

いが、着脱不能の固定式とすることもできる。柄本体とヘッドとを着脱自在とする場合には、螺着、嵌合等の公知の装着手段を採用することができるが、図 5 に示す実施形態におけるように、螺着による装着を採用することが好ましい。

【 0 0 3 8 】 本発明の清掃具の実施形態は、例えば、上記した実施形態の清掃布 1（又は 1'）と清掃具の柄 4（又は 4'（図 2 及び図 3 参照））とから構成とすることができる。そして、上記清掃具の柄のヘッドを上記清掃布の上記挿入空間に挿入させて更に固定させたり、或いは、清掃布をヘッドを包むように折曲して更に固定することによって作製することができる（図 2 及び図 3 参照）。そして、上記はたき部を利用したはたきとしての使用の他に、上記拭取り部を利用した拭き掃除も可能であり、清掃箇所に対応した幅広い使用が可能である。特に清掃布を着脱自在とした場合には、使用により汚れた清掃布の取り替えも当該清掃布をヘッドから取り外して新たな清掃布を装着することによって簡単に行うことができる。

【 0 0 3 9 】

【実施例】 以下、本発明の実施例をさらに具体的に説明する。

【 0 0 4 0 】 【実施例 1・・・本発明に係る清掃布の実施例】 図 8 は、本発明に係る清掃布の一実施例を示したものである。図において、符号 1 は清掃布を示している。

【 0 0 4 1 】 図 8 に示したように、上記清掃布 1 は、内部に挿入空間 S を有する袋部の周面部を形成する拭取り部 2 及びその周縁部に短冊状の複数のはたき片 3 0 からなるはたき部 3 を備えた吸塵性の不織布（繊維材料）から形成されている。

【 0 0 4 2 】 上記清掃布 1 は、平面視してほぼ正方形状の 2 枚の吸塵性不織布 1 0、1 0 が下端部から中央部にかけて略逆 U 字状（図中実線 L 参照）に縫合されている。そして、この縫合により、内部に扁平な挿入空間 S を有する上記拭取り部 2 が設けられるとともに、当該拭取り部 2 とはたき部 3 とが画成されている。

【 0 0 4 3 】 上記清掃布 1 の拭取り部 2 の下端部には上下方向の一对の切り込み 2 0、2 0 が形成されており、その間に当該清掃布 1 を後述する清掃具の柄 4 におけるヘッド 4 1（図 5 参照）に取り付けるためのタブ 2 1 が設けられている。

【 0 0 4 4 】 上記はたき部 3 は、上記不織布 1 0、1 0 の周縁部から上記縫合箇所の近傍までジグザグ状の切り込み 3 a を入れることによって設けられた複数の短冊状のはたき片 3 0 から形成されている。また、はたき部 3 の先端部に位置するはたき片 3 0 には、当該はたき片 3 0 を幅方向に二分するようにその先端部から長さ方向中間部に亘ってジグザグ状の切り込み 3 b が形成されており、細かい箇所での埃取りを可能としている。

【 0 0 4 5 】 上記清掃布 1 は、上記挿入空間 S 内に、例えば清掃具の柄 4 のヘッド 4 1（図 5 参照）を挿入し、上記拭取り部 2 で拭き掃除を行ったり、はたき部 3 ののはたき片 3 0 で埃をはたき、そのまま吸着させて埃取りを行うなど、掃除箇所に応じて清掃を行うことができる。また、上記清掃布 1 においては、上記挿入空間 S 内に直接手を挿入して拭き掃除等を行うこともできる。

【 0 0 4 6 】 【実施例 2 ・ ・ ・ 本発明に係る清掃具の柄の実施例】 図 9 及び図 1 0 は、本発明に係る清掃具の柄の一実施例を示したものである。図において、符号 4 は清掃具の柄（以下、本実施例において単に「柄」という。）を示して

【 0 0 4 7 】 図 9（a）に示したように、上記柄 4 は、柄本体 4 0 と、柄本体 4 0 の先端部に着脱自在に装着されるヘッド 4 1 とから構成されている。そして、このヘッド 4 1 に例えば上記清掃布 1 を装着するようになしてある。

【 0 0 4 8 】 上記柄本体 4 0 は、径の異なる 3 本の円筒状部材 4 0 a ～ 4 0 c を主体として構成されている。当該柄本体 4 0 は、これらの円筒状部材 4 0 a ～ 4 0 c を、大径の円筒状部材内に小径の円筒状部材を前後動自在且つ係止可能に連結させるといった公知の伸縮機構によって、伸縮自在に設けられている（図 9（b）及び（c）参照）。上記円筒状部材 4 0 a の先端部の内面には、雌ねじ（図示せず）が形成されており、後述するヘッド 4 1 のねじ部材 4 3 を螺着できるようになしてある。なお、柄本体 4 0 の後端部には、リング状に設けられた紐 4 0 d 取り付けられており、当該柄本体 4 0 をフックなどの留め具に掛けることができるようになしてある。

【 0 0 4 9 】 図 1 0（a）及び（b）に示したように、上記ヘッド 4 1 は、先端部が平面視して略 U 字状の輪郭を有するように先細りに形成され、且つ先端部に進むにつれてその厚さが薄くなるように形成されている。上記ヘッド 4 1 は、下端部に開口部 4 1 a が形成されるとともに、内部に上記芯材 4 2 を挿入できるように挿入部 4 3 が設けられている。ヘッド 4 1 は、清掃布を装着し得る発泡ポリエチレンからなり、その内部には、芯材 4 2 が接着固定されて配設されている。また、ヘッド 4 1 の表面は、メルトーム加工が施されており、清掃布 1 の着脱がスムーズに行えるようになしてある。

【 0 0 5 0 】 上記芯材 4 2 は、平面視して略 U 字状の ABS 製の板ばね（板状の弾性部材）から構成されており、この芯材 4 2 によって、上記ヘッド 4 1 に適度な剛性としなりとを付与するようになしてある。また、芯材 4 2 の下端部には、外周部に雄ねじ（図示せず）が形成されたねじ部材 4 3 が取り付けられており、上記柄本体 4 0 の筒状部材 4 0 a の先端部に螺着可能に設けられている。

【 0 0 5 1 】 上記柄 4 においては、柄本体 4 0 が伸縮自

在に形成されており、必要に応じて伸張させることができるとともに、柄本体 4 0 とヘッド 4 1 とを分離することができ、コンパクトに収納することができる。

【 0 0 5 2 】 【実施例 3 ・ ・ ・ 本発明に係る清掃具の実施例】 図 1 1 ～ 図 1 3 は、本発明に係る清掃具の一実施例を示したものである。図において、符号 5 は清掃具を示している。

【 0 0 5 3 】 本実施例の清掃具 5 は、上記実施例の清掃布 1 と、上記実施例の清掃具の柄 4 とから構成されている。

【 0 0 5 4 】 図 1 1 に示したように、上記清掃具 5 では、上記清掃具の柄 4 におけるヘッド 4 1 を上記清掃布 1 における上記挿入空間 S に挿入させ、更に、上記タブ 2 1 をヘッド 4 1 における開口部 4 1 a から挿入させて、当該清掃布 1 をヘッド 4 1 に固定している。

【 0 0 5 5 】 上記清掃具 5 を使用する際には、まず、上記柄本体 4 0 にヘッド 4 1 を螺着させて装着し、柄 4 を組み立てる（図 9（b）参照）。次いで、図 1 2（a）及び（b）に示すように、ヘッド 4 1 に、上記清掃布 1 を被せるように装着するとともに、上記タブ 2 1 をヘッド 4 1 の開口部 4 1 a に折り込んで固定し、清掃具 5 の組立を完了する。

【 0 0 5 6 】 そして、比較的面積の広いテーブルなどは、主として清掃布 1 の拭取り部 2 を利用して誇りを拭き取る。また、はたきとして使用する場合には、はたき部 3 を利用して吸塵する。また、手元の拭き掃除には柄 4 を縮めた状態で使用し、高いところや奥まった隙間等の拭き掃除を行うときには、柄 4 を伸張させて使用する。

【 0 0 5 7 】 清掃布 1 の汚れがひどくなった場合には、図 1 3（a）に示すように、タブ 2 1 をヘッド 4 1 の開口部 4 1 a から抜き取り、さらに、図 1 3（b）に示すように、清掃布 1 の先端部を摘んで引き抜き、ヘッド 4 1 から清掃布 1 を分離させる。そして、必要に応じて別の清掃布に取り替えて清掃を行う。

【 0 0 5 8 】 このように、本実施例に係る清掃具 5 は、拭取り部 2 とはたき部 3 とを備えているため、拭取り部 2 を利用して拭き掃除を、また、はたき部 3 を利用してはたきとして使用することができ、家具、電化製品、照明器具など広い範囲の物品の拭き掃除や埃取りを簡単且つ確実に行うことができる。

【 0 0 5 9 】 また、清掃布が取り替え式であり、汚れた時点で簡単に取り替えることができるため、いつも清潔に使用することができる。

【 0 0 6 0 】 また、柄 4 が伸縮自在に設けられているので、高い箇所の拭き掃除や埃取りには柄 4 のばして、手元の拭き掃除や埃取りには柄 4 を縮めた状態で使用することができる。

【 0 0 6 1 】 また、柄 4 の柄本体 4 0 とヘッド 4 1 とが分解可能であるため、未使用時にはこれらを分解してお

10

20

30

40

50

き、柄本体 4 0 も縮めておくことで、コンパクトに収納することができる。

【0062】また、上記ヘッド 4 0 内に、略 U 字状のばねが配設されているので、種々の形状に対応した適度なしなりが得られるとともに、当接箇所を力に集中させることができ、拭き掃除や埃取りをむらなく行うことができる。

【0063】また、ヘッド 4 1 の表面がメルトーム加工されているので、清掃布 1 の着脱もスムーズに行うことができる。

【0064】本発明に係る清掃布、清掃具の柄、及び清掃具は、上記実施例の清掃布 1、清掃具の柄 4 及び清掃具 5 に限定されるものではなく、本発明の目的を逸脱しない範囲において、その寸法、形状、材質等の形態を適宜変更することができることはいうまでもない。

【0065】

【発明の効果】本発明に係る清掃布、清掃具の柄、及び清掃具によれば、以下の効果を奏することができる。請求項 1 ～ 4 のいずれかに記載の清掃布は、上記はたき部を利用したはたきとしての使用の他に、上記拭取り部を利用した拭き掃除にも使用可能であり、清掃箇所に対応した幅広い使用が可能である。

【0066】請求項 5 に記載の清掃具の柄は、上記ヘッドが清掃布を装着し得る可撓性の弾性部材からなるので、当該ヘッドに清掃布を装着して清掃する際に対象物に傷をつけることがない。

【0067】請求項 6 又は 7 に記載の清掃具の柄は、請求項 5 に記載の清掃具の柄における効果に加えて、上記ヘッド内に、芯材が配設されているので、ヘッドに適度の剛性を付与することができる。

【0068】本発明の請求項 8 に記載の清掃具の柄は、請求項 5 ～ 7 のいずれかに記載の清掃具の柄における効果に加えて、上記柄本体が伸縮自在に設けられているので、清掃箇所に応じて柄本体を伸縮させることができるほか、収納時にもコンパクトに収納することができる。

【0069】請求項 9 に記載の清掃具は、上記各効果を奏する請求項 5 ～ 8 のいずれかに記載の清掃具の柄における上記ヘッドを上記各効果を奏する請求項 1 ～ 4 のいずれかに記載の清掃布を装着することによって、上記はたき部を利用したはたきとしての使用の他に、上記拭取り部を利用した拭き掃除にも使用可能であり、清掃箇所に対応した幅広い使用が可能である。

【0070】請求項 1 0 に記載の清掃具は、使用により清掃布が汚れた場合には、当該清掃布をヘッドから取り外して新たな清掃布を装着することによって簡単に取り替えることができる。

【図面の簡単な説明】

【図 1】本発明に係る清掃布の実施形態を示す図であり、(a) は清掃布の一形態を示す平面図、(b) は清掃布の他の形態を示す平面図、(c) は清掃布の他の形

態を示す平面図、(d) は清掃布の他の形態を示す平面図である。

【図 2】本発明に係る清掃布の他の実施形態を、清掃具の柄におけるヘッドに装着している状態を示す図であり、(a) は装着前の状態を示す斜視図、(b) は装着後の状態を示す斜視図である。

【図 3】本発明に係る清掃布の他の実施形態を、清掃具の柄のヘッドに装着している状態を示す図であり、

(a) は装着前の状態を示す斜視図、(b) は装着後の状態を示す斜視図である。

【図 4】本発明に係る清掃布の一実施形態を示す図であり、(a) は、背面図、(b) は側面図、(c) は平面図、(d) は底面図である。

【図 5】本発明に係る清掃具の柄の一実施形態を示す斜視図である。

【図 6】本発明に係る清掃具の柄におけるヘッドの実施形態を示す図であり、(a) はヘッドの一実施形態を示す平面図、(b) はヘッドの他の実施形態を示す平面図である。

【図 7】本発明に係る清掃具の柄のヘッドにおける芯材の実施形態を示す図であり、(a) は芯材の一実施形態を示す平面図、(b) は芯材の他の実施形態を示す平面図、(c) は芯材の他の実施形態を示す平面図である。

【図 8】本発明に係る清掃布の一実施例を示す斜視図である。

【図 9】本発明に係る清掃具の柄の一実施例を示す斜視図であり、(a) は柄本体とヘッドとを分離した状態を示す図、(b) は柄本体にヘッドを装着した状態を示す図、(c) は柄本体を伸ばした状態を示す図である。

【図 10】同実施例の清掃具の柄におけるヘッドの構成を示す図であり、(a) は平面図、(b) は平断面図である。

【図 11】本発明に係る清掃具の一実施例を示す斜視図である。

【図 12】同実施例の清掃具における清掃布の装着手順を示す図であり、(a) は清掃布を装着する前の状態を示す斜視図、(b) は清掃布をヘッドに装着している状態を示す斜視図である。

【図 13】同実施例の清掃具における清掃布の取り外し手順を示す図であり、(a) は清掃布のタグをヘッドからはずしている状態を示す斜視図、(b) は清掃布をヘッドから取り外している状態を示す斜視図である。

【符号の説明】

1、1' 清掃布

2、2' 拭取り部

3、3' はたき部

4、4' 清掃具の柄

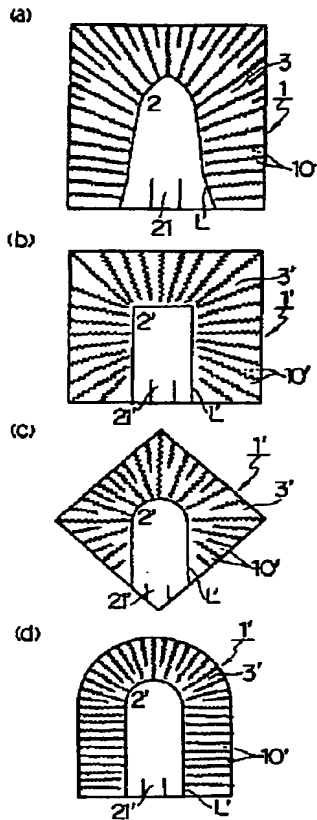
40 柄本体

41、41' ヘッド

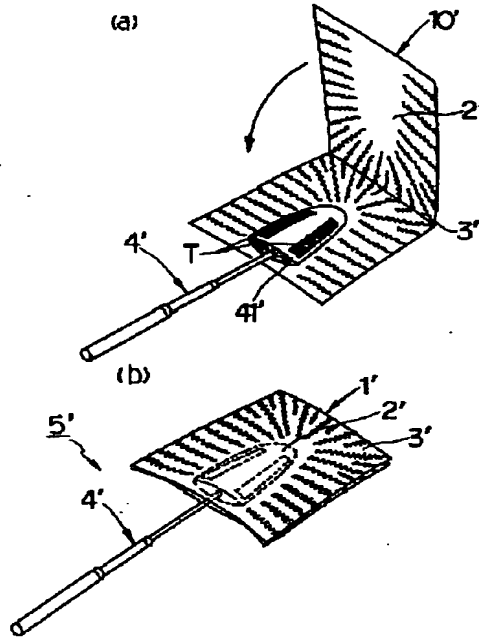
42、42' 芯材

5、5' 清棉具

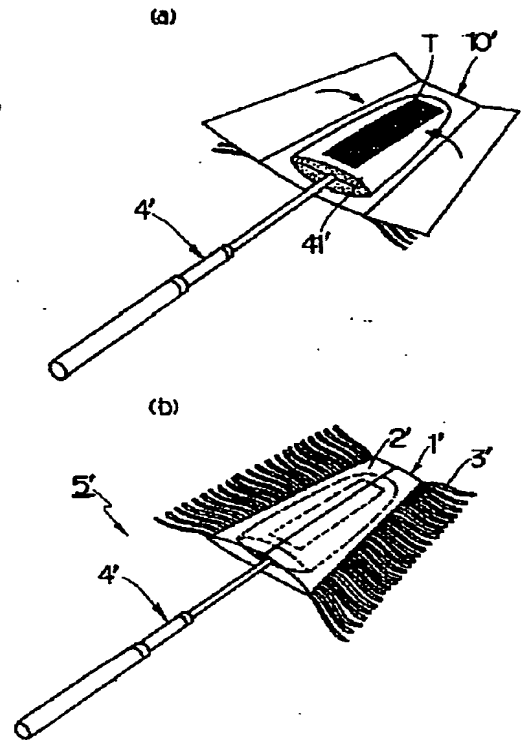
【圖 1】



【圖 2】

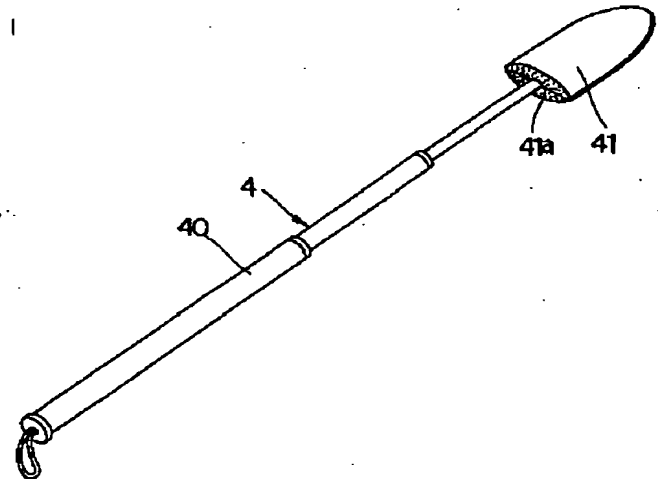
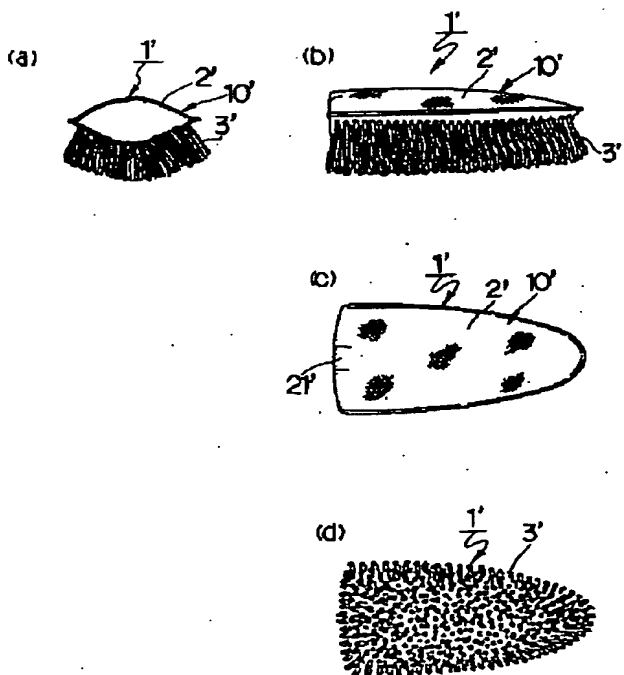


【圖 3】

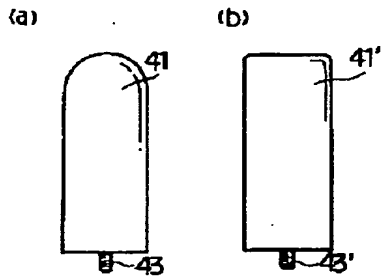


【圖 5】

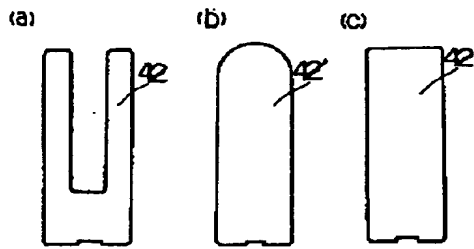
【圖 4】



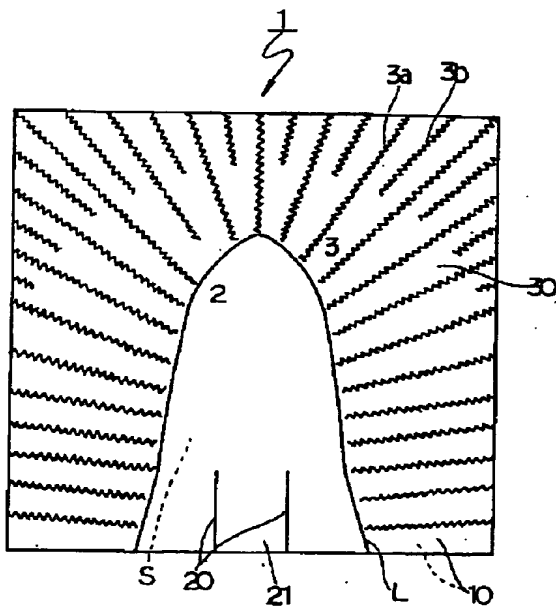
【図 6】



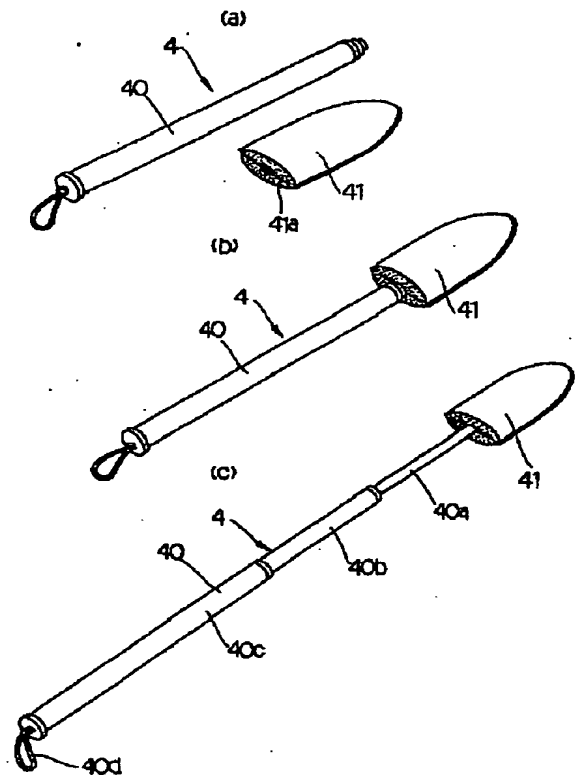
【図 7】



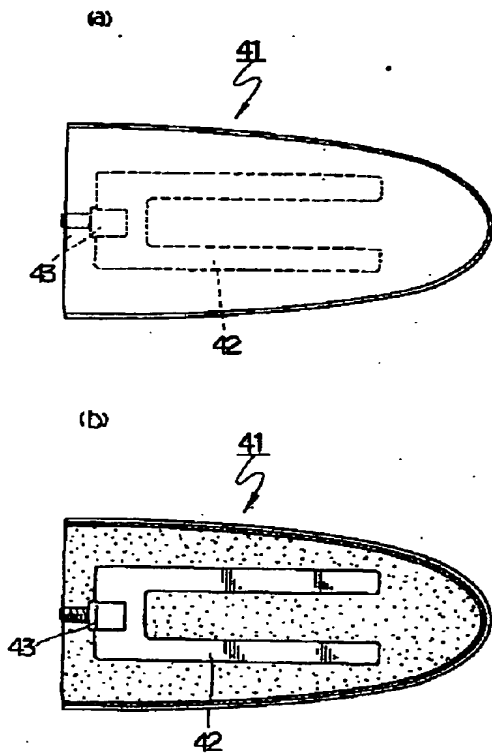
【図 8】



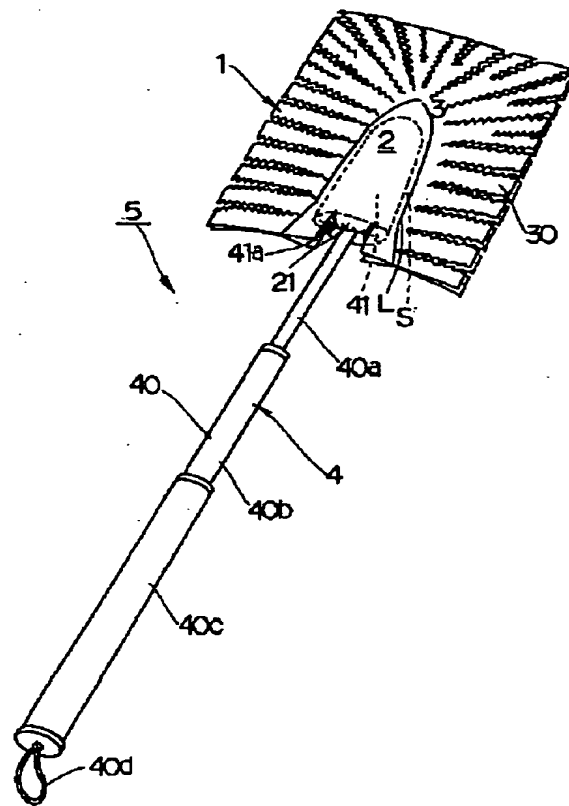
【図 9】



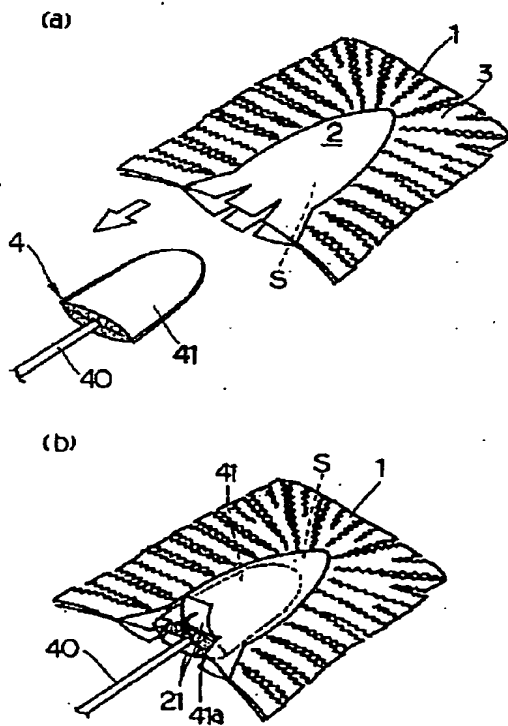
【図 10】



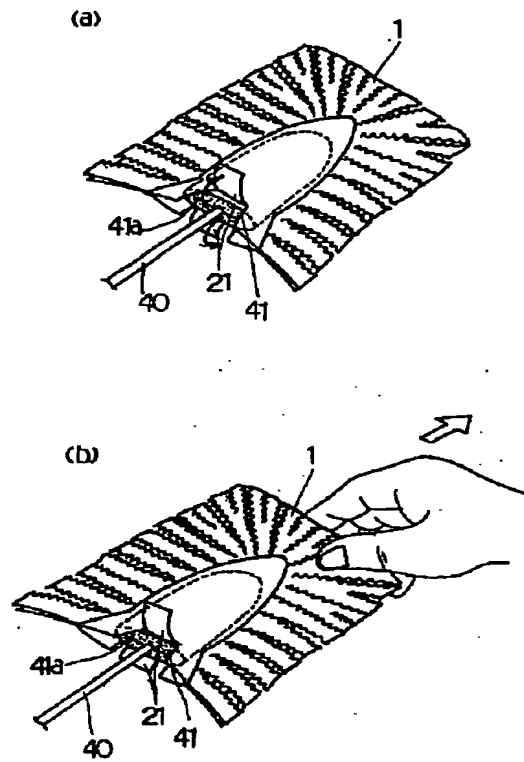
【図 11】



【図 12】



【図 1 3】



フロントページの続き

- (72) 発明者 鈴木 陽一
栃木県芳賀郡市貝町赤羽 2 6 0 6 花王株
式会社研究所内
- (72) 発明者 堤 泰樹
栃木県芳賀郡市貝町赤羽 2 6 0 6 花王株
式会社研究所内